



宇野 由紀子(うの ゆきこ)
クローゼットオーガナイザー®/ライフテックスチャリスト。
収納用品の専門店「収納の巢」や、うっとりクローゼットのつくり方サイト「Active Closets」などを運営する株式会社テンネット代表。2016年には、収納ツールの新ブランド「VIVIDEEP(ビビディーブ)」を立ち上げる。

「便利」も「嬉しい」も手に入れる

あなたをHAPPYにするクローゼットのある暮らし

講師 宇野 由紀子さん

収納が苦手だという人は多いと思います。なかでもクローゼットは、「スペースが足りない」「詰め込み過ぎて洋服を探すのが大変」など悩みが尽きない場所の一つです。今回は、長く収納の仕事に携わってこられた宇野由紀子さんに、収納と楽しく向き合うための考え方や、収納用品の活用方法をベースにした機能的な仕組み、開けるたびに笑顔になれる、あなたをハッピーにするクローゼットのつくり方を教えていただきます。

収納をもっと楽しくもっとポジティブに

収納用品のメーカーで商品開発をしながら、整理収納用品の専門店を立ち上げて14年になります。もともと片付けが得意というわけではなく、縁あって「収納」に関わることになったがゆえに、収納の意味・役割について思案を重ねてきました。「やらねば」という義務感でなく、ポジティブで楽しい行為として皆さんに取り組んでもらうためにも、今私が考える収納の役割を大きく3つに分けて、まずお伝えしたいと思います(図1)。

1 つ目が「スムーズをつくる収納(organize)」です。収まり、整い、秩序や仕組みがあって暮らしやすい状態。一般的に皆さんが片付けに求めることですよ。ただ間違えないでください。こうある

べきという正解があるわけではなく、自分の頭とカラダが喜ぶスムーズをつくる欲しいのです。自身のライフスタイルや日々の行動パターンに逆らわない配置や仕組みをつくと、その都度頭を使う必要がなくなりカラダにも無理のない動線ができます。自分に合った収納に近づけていくことで、選ぶのも戻すのも楽になり、無用なストレスともさようならさせるのです。

ココロが喜ぶ収納で暮らしに潤いを

2 つ目が「印象をつくる収納(impress)」です。キーワードは、きれい・おしゃれ・うっとり・楽しい・癒される・ほっとする……といったところでしょうか。先程は「頭とカラダが喜ぶ」でしたが、今度は「ココロが喜ぶ」印象をつくっていく

収納です。

例えば、好きな器をいつでも目にする
ことができるよう収納する。今夜はこれに盛り付けよう！と、お料理のモチベ



【図1】

宇野由紀子の
収納考

「自分探求」としての収納
vivid & deep

「印象」をつくる収納
impress

「スムーズ!」をつくる収納
organize

ションが上がるかもしれません。お気に入りのアクセサリーだっで見せる収納で素敵に飾ることができればお出かけが愉しくなるでしょう。また、ぎゅうぎゅうに詰まっている収納棚を一箇所だけ整理し空間をつくり季節の小物を飾ってみる。そんな風に自分の心に嬉しくはたらきかける印象づくりも収納の役割。小さなところから少しずつ積み重ねていくと、いつの間にか暮らしに潤いが生まれると思うのです。

自分を見つめ これからを創る収納

3 つ目は「自分探究としての収納 <live & deep>」です。自分が何を好きなのか、何が自分らしいかをクリアしていくという役割です。これは私の実験にも基づいています。2年前に収納をテーマにした展覧会をしたことがあり、その時に自分の持っているモノの中から大好きなアイテムだけを選んでコラーージュのように収めていくオブジェ作品を作りました。コラーージュが出来上がるにしたがって、私の「好き」の方向性がどんどんはっきりと再確認できたことに加え、「もうこれは卒業できる」、要は手放せるアイテムも分かってきたんですね。

モノと向き合い自分の「好き」を浮き彫りにすることで、それらをそばに置いたり、大切に収めたり、関係を深めるように持つという選択ができるようになります。もう使えない思い出の品でも同じです。今の自分を応援してくれるエネルギーになるならば、それにふさわしく宝物として扱

えるといいですよね。自分らしさを探求し、今という時間を謳歌。さらにはこれからをも創る、そんな役割を収納という行為が多少なりとも担っているとは私には思っています。スムーズ、印象、自分探求、とお話してきましたが、この順番で片付けを進めないといけないということではありません。興味を持ってたところ、自分に向いていると感じるところから取り組んでみてくださいね。

要・不要ではなく 自分と物との関係で分類

さて、今日の講座ではまずクローゼットにスムーズをつくっていきたいと思いますが、その前に、量について考えてみます。量を減らさないといけないと思っている方は「不要なモノ探し」をしなくてはというプレッシャーを感じていることがほとんどです。でも要・不要の2軸で考えるのは辛いこと。そうではなく、自分とモノとの関係を分類することで整理していく。そのひとつの例を図を用いてお伝えしますね(図2)。

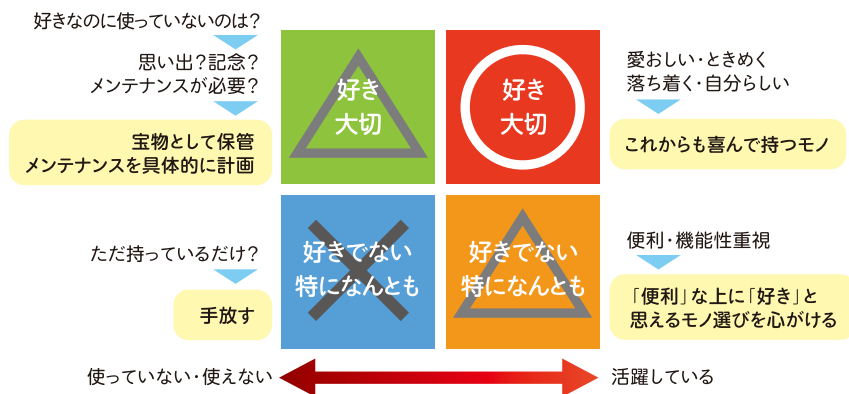
4色の四角があります。上の2つは「好き・大切」下には「好きでない・特になんとも」とありますね。矢印の左右に書いてある「使っていない・使えない」と「活躍している」という言葉。これらを掛け合わせます。赤の四角は「好き・大切」な上に活躍しているモノたち。文句なしに持ち続けているですよ。だから○。オレンジは△で「好きでない・特になんとも」ないけれど活躍しています。ここに当てはまるのは利便性や機能性で選んだモノかもしれません。

せんね。便利で機能的、なおかつ「好き」だったからより素敵だと思いませんか。デザインは気に入らないけれど防寒のために着ているダウンジャケット、次に買い換える時にはデザインもお気に入りを見つけると、赤の枠に入りますよね。

「在る」から「有る」へ

青の「好きでない・特になんとも」思わない、そして使っていないモノはただ持っているだけ。これらは手放すことをおすすめします。状態が良ければ寄付やリサイクル、

【図2】クローゼットのhappyを手に入れるための準備：モノと向き合う



喜んで使ってくれる友達に譲ることもできます。ただ、誰にいつ譲るのか具体的にイメージができない場合いつまでも持つままになりかねないので要注意です。

緑も△です。なぜ「好き・大切」なのに使っていないのでしょうか。思い出や記念の品などはこの枠に入るかもしれません。すごく大切に、その頃のことを思い出させるのスイッチになるような持ち方ができるならば、手を振って持っていていきましょう。なんとなく在るだけならば手放すことも視野に入れてください。

他に緑に入るのは、ボタンが取れている、シミが付いたままなど、単にメンテナンスが必要なモノも緑のゾーンでしょう。それらもいつ手入れできるのか決めることが大事。今週末に直す!と決めて実行すればすぐに赤枠に入り活躍させることができるのですから。

このように、幾つか軸を作って分類しモノと向き合うことができれば、漫然と存在している「在る」から積極的に所有している「有る」へとモノとの関係が変わっていくはず。また「好きなモノのコラーージュをする中で手放せるアイテムが自然に出てきた……」という私の体験談を思い出してください。不要なモノ探しではなく、好きなモノ選びと思うだけで楽しく挑めそうですよね。

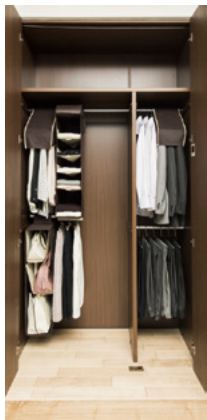
便利も好きもシェアできる 夫婦のクローゼット

ではこれからクローゼットにスムーズをつくっていきますね。今からご紹介

使う人がハッピーになる 夫婦のクローゼット

【写真1】

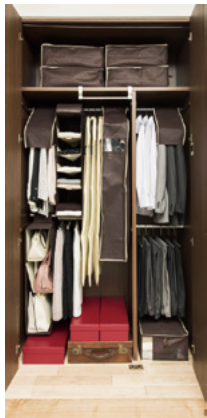
吊すゾーンを上下に分け、
畳んだトップスやバッグも吊す。



- 左に妻、右に夫。二人でシェア
- トップス、ボトムスを上下に
- 畳んだトップスやバッグも吊るす

【写真2】

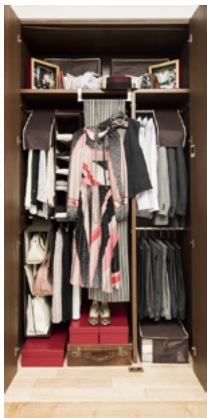
オフシーズンの服や週末アイテムを
余白ゾーンにまとめて収納。



- オフシーズンはセンターと上棚
- 床置きは週末アイテム
- カバーは目的で使い分け

【写真3】

普段は意識しないクローゼットの
前面を魅せる収納ゾーンに。



- フロントゾーンをディスプレイの
ステージに
- 上棚のフロントにもハッピーをon

するのは積水ハウスさんとのコラボレーションで、納得工房内のクローゼットに私たち「収納の巣」の収納サポータールを用いて実際にアレンジしたものです。

夫婦で「便利も好きもシェアできるアクティブクローゼット」を目指して工夫を盛り込んでいます。妻のスペースが左、夫が右。センターが空いているのは、そこに2人のオフシーズンものを保管するためです(写真1)。そうすることで忙しい朝、同時に洋服選びをする際にも適度な距離感を保てます。

次にコーディネットをしやすくするための工夫「トップスは上に吊るす、ボトムスは下に吊るす」の上下配置です。ジャケットやシャツ、ブラウスなどは吊るしていても、ニット類は仕方なしに畳んでいくという方も多いのでは？ それらも滑りにくい素材のハンガーを使えば吊るす収納が可能になり、畳むとシワになりやすい薄手のニットも、着る前のアイロンの必要がなくなります。シワの心配な

い厚手のニットやカットソーなどのトップスは、ハンギングタイプのラック「ウェアホルダー」に畳んで水平に入れて収納することも出来ますね。このように「トップスは上に吊るす」からスタートしてみてください。一方ズボンやスカートなどが「ボトムスは下に吊るす」、でしたね。これを実践するために役に立つのが「クローゼットプランコ」です。今回は20cm幅、40cm幅のプランコを用いました。クローゼットにもともと設置してある上部のバーからプランコをぶら下げるだけで好きなところに2段目のバーをしつらえることができます。そこへボトムス専用のハンガーを使って吊るしていきましょ。ボトムスの他に、左側の妻のスペースには吊るせる「バッグホルダー」を使い、バッグを収めてみました。このように配置することで、トップスを上から、ボトムスを下からそれぞれ選んで、バッグもその流れでコーディネットできます。頭で考える流れを自然にカラダの動きに移すことができるというわけですね。

余白ゾーンに、季節物や 週末アイテムを収納

日常のアイテムが整ったところで、余白のゾーンを埋めていきます。先ほどもお伝えした通り、2人のスペースの間にはオフシーズンの洋服を収納します。翌シーズンまでしまったままになるので、ホコリ対策として洋服カバーに入れておきましょう。まとめて数枚入るカバーと1枚ごとのカバーは好みで選んでください(写真2)。

カバーのつながりで話が戻りますが、日常のアイテムにも肩部分だけ覆えるカバーをかけています。全て隠さずにホコリよげができるので、オンシーズンの洋服にも使いやすいですし、定位置を決めるガイドとしての役目も担ってくれます。さて残るは上棚と床、上下のスペースです。上棚には軽量でやわらかい素材のケースを利用してオフシーズンアイテムを収めます。カテゴリーや人ごとに分類して入れておく目当てのものだけ上げ

下ろしてきて効率的です。

そして下、床置きスペースです。こちらは週末アイテムのゾーンにしました。休みの日にしか着ないカジュアルウェアや趣味のグッズをテンションの上がる赤いボックスなどを使って収めています。

いかがですか？ここまでで「便利も好きもシェアできるアクティブクローゼット」の「便利なシェア」を仕組み化してきました。この次は「好きのシェア」です。

フロントに、好きを飾り ハッピーになれる収納に

好きのシェアのために着目した場所が「フロントゾーン」です。ここで登場するのがクローゼットの上棚に設置して使う「フロントディスプレイシステム」。フック2個にバーを渡す仕組みで、今回は生地を吊り下げました。センターにしまったオフシーズンアイテムの手前にステージをつくるような感覚です。そこへ2人のお気に入りコーディネットをハンギング(写真3)。想定した夫婦は、古き良き時代のファッ

ションが好きで、銀幕のカップルを意識してコーディネットと一緒に考える……というおしゃれさん。ヴィンテージのワンピースと蝶ネクタイの色目を合わせたコーディネットが微笑ましいですよ。

また上棚のフロント部分には帽子の他に、アールデコ風の香水瓶や古いカメラ、ミニカーなどを飾っています。扉を開けるたびに、好き、が目に飛び込んで、ハッピーな心持ちになれる、そんな「印象をつくる」クローゼットが出来上がりました。

クローゼットのフロントゾーンなんて考えたことがなかったと思いますが、もし「好き」をなんでもトッピングできるとすれば何を飾りますか？あの洋服をディスプレイしようかな、この思い出を飾ろうかな。ワクワクをぜひイメージしてみてくださいね。

そうそう、フロントディスプレイシステムには、一度着てすぐにしまいたくない洋服や、ハンガーの一時置き場としても使えるという実用性もありますよ。

私の「love」を鮮やかに映す自分探求クローゼット

納得工房内のもう一箇所のクローゼットもアレンジしたのですが、そのテーマは「私の「love」を鮮やかに移す自分探求クローゼット」(写真4)。そこ、私が収納に求める役割のひとつ、「自分探求」です。

使用したクローゼットはバーや棚板を自由に設置できるようになっていて、思い通りフレキシブルにレイアウトすることができました。こちらのクローゼット

【写真4】私の「love」を鮮やかに映す自分探求クローゼット。



の持ち主として想定した人物像は「着物が好き、毛糸や編み物、手芸が好き」な女性です。右半分には編み物作品やそれに合う世界観の洋服、ストール、ブーツなどがあり、写真では見えにくいですがランブや編み物の本なども真ん中の棚板の上に置いてあります。クローゼットを開けて「次に何を編もうかな」と本をめくる……そんなシーンも想像できますね。目線を上げると額縁のような箱の中に買い置きの毛糸が美しく収納されていて、いつでもスタンバイOKです。

左半分は着物三昧のスペース。桐の3段の引き出しの上には、桐の重ね箱「クローゼット」を置いて、帯留めや帯締め、ビーズバッグなどの小物を飾りながら収めています。奥にはスリット状になった立て掛けラックを配置し、季節の帯を愛でることができ、自分だけのミュージアムのような収納にしました。こちらもそのまま目線を上げると、いつかは着物になる予定の反物が透明ケースであなたにアピールしているという具合です。夢が広がりますよね。

このように自分の大好きなものをひと

ところに凝縮することで、すぐにそれらにアクセスでき、好きなモノ・コトに向き合う時間が積み重なっていく。時間の質感がどんどん変わっていくに違いありません。

自分らしさ全開のクローゼットを自由に発想

クローゼットは毎日向き合うスペースですから、日常を支える「スムーズをつくる」ことはもちろん大切ですね。また扉を開けるたびに嬉しくなる、そんな「印象をつくる」ことで暮らしにワクワクをもたらしちゃいます。さらには、大好きなモノ・コトを深めることができる「自分探求のための」スポットにすらなり得る、そんなお話をしてみました。

最後に付け加えたいのは、他の収納スペースとクローゼットの違いです。当たり前のようで大きな違いなのが、他人に見せることのないとてもプライベートな場所であること、中に収めるのは全て自分のモノであるということです。だからこそ人の目を意識せず、あなたの採配で、自分らしさ全開のクローゼットを、自由な発想で描いてほしいと思うのです。「こうあるべき」という既成概念をぜひ手放してみてください。

今日お伝えした収納の考え方や、仕組みのつくり方、自分らしいクローゼットを引き寄せるためのTipsが、何かひとつでも皆さんの引き出しに収まり、「収納との関係」がハッピーになるきっかけになればとても嬉しいです。ご静聴ありがとうございました。

あなたをHAPPYにするクローゼット展

洋服を整理・整頓するという実用面だけではなく、クローゼットをもっと自分好みの素敵な空間として楽しめようになりたいと「積水ハウス」と「収納の巣」がコラボレーション。納得工房の収納コーナーで「あなたをHAPPYにするクローゼット展」を実施しました。



収納Tipsのページはこちら。PDFがダウンロードできます(2017年)。http://www.sekisuihouse.com/nattoku/koubou/info/storage/index.html